Japan in the Coming Decade

SURVIVING IN
AN INFORMATION-INTENSIVE
SOCIETY

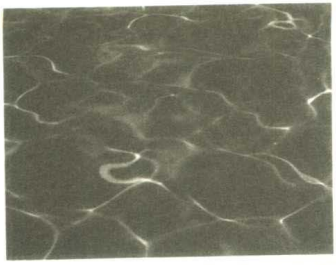
大予測 十年後の日本

高度情報社会のトレンドと本質を読む

前野和久

PHP研究所

112
J31
647



大予測 10年後の日本

江苏工业学院图书馆
藏书章

高度情報社会のトレンドと本質を読む

前野和久

Japan in the Coming Decade

SURVIVING IN
AN INFORMATION-INTENSIVE
SOCIETY

PHP研究所

〈著者紹介〉

前野和久（まえの　かずひさ）

1939年（昭和14年）横浜生れ。東京教育大学文学部卒業後、東京大学新聞研究所修了。毎日新聞社入社後、盛岡支局、社会部編集委員を経て、プロモーション本部兼メディア企画室委員。郵政省、ＮＴＴ、ＫＤＤの各記者会を担当。昭和51年、『宗教を現代に問う』（共著、毎日新聞社）で菊池寛賞受賞。同63年、『情報社会 これからこうなる』（ＰＨＰ研究所）で、テレコム社会科学賞を受賞。
他に、『ＩＮＳのことがわかる本』（日本実業出版社）、『ニューメディア』（共著、第一法規出版）、『ＩＮＳで変わる仕事と暮らし』『超発想集団・ナムコ』『高く売れる「価値」とは何か』（以上、ＰＨＰ研究所）などがある。

大予測・十年後の日本
高度情報社会のトレンドと本質を読む

1989年10月４日　第１版第１刷発行
1990年２月21日　第１版第５刷発行

著者　前野和久
発行者　江口克彦
発行所　ＰＨＰ研究所
東京本部　03-239-6221
〒102 千代田区三番町３番地10
京都本部　075-681-4431
〒601 京都市南区西九条北ノ内町11
印刷所
製本所　大日本印刷株式会社

© Kazuhisa Maeno 1989 Printed in Japan
落丁・乱丁本の場合はお取り替えいたします

ISBN4-569-52583-0

PHPの本

10年後のTOKYO
世界最強都市の未来を展望する

上之郷利昭

東京はすでに世界一の都であるが、その東京の十年後の姿はどうなっているのか？　衣食住からビジネスまでを全予測する

＊1100円

情報社会 これからこうなる

前野和久

情報社会の進展は予想以上に速く、数年後には個々人までがネットワークされていく　迫り来る高度情報社会の行方を大胆に予測する

＊1200円

日本経済 これからこうなる

宮崎　勇

新しい局面を迎えた日本経済――円・ドルレート、構造調整、国際収支……はどうなるか　最も注目を集める著者がその行方を説く！

＊1200円

サラリーマン これからこうなる

江坂　彰

日本的経営の崩壊、高失業・賃金格差……など、激震の最中にあるビジネス社会を鋭く分析し、今後のサラリーマンの生き方を説く！

＊1200円

東京 これからこうなる

平本一雄

東京の経済規模は今や先進国並みとなった　この巨大な経済力とそこに潜む地価高騰や東京集中のひずみ――10年後の東京の姿とは？

＊1200円

＊印のものは消費税が加算されます
なお、定価は将来、改定される事があります

PHPの本

昭和史を読む50のポイント

保阪正康

人類が歴史上で体験する一切の事が凝縮された昭和史。この時代を、著者独自の史観をまじえ、50のポイントから解き明かす

＊980円

ビジネスマンのための 一〇〇冊の本

谷沢永一 監修
PHP研究所 編

時代を見直すために、自らを高めるために、ビジネスマンは何を読むべきか？ 名著・話題の書一〇〇冊を厳選し紹介する

＊980円

ゼミナール 現代日本の政治経済

高坂正堯
市村真一 [編著]

戦後日本の歩みから90年代の課題までを、政治、経済、思想の観点から説く。日本の座標軸を見つめ直す上での格好のテキスト！

＊1100円

21世紀へのグランドデザイン 新・技術文明の創造

日本再活性化への道を探る

石井威望
山崎敏夫

日本再活性化には、産業構造の転換と日本社会に新しいインフラストラクチャーを構築する必要がある。21世紀への日本のグランドデザインを描く。

＊1300円

陸奥宗光（上巻・下巻）

岡崎久彦

条約改正、日清戦争と下関条約、そして三国干渉と、激動の時代にあって日本の命運をになった男の生涯を描いた記念碑的労作

＊1500円 上巻
＊1700円 下巻

＊印のものは消費税が加算されます。
なお、定価は将来、改定される事があります。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

PHPの本

麻雀・カラオケ・ゴルフは、おやめなさい。

長谷川慶太郎

「これからの日本経済とサラリーマンの戦略」とは何か？　経済・社会・企業・消費に表われる「大変革」を大胆に予測する

定価1200円（本体1165円）

「日本の世紀」の読み方

渡部昇一

「欧米の世紀」から、日本を中心とするアジア発展の時代へ――世界史的に見た「日本の世紀」に、日本は何をなすべきか

定価1300円（本体1262円）

天皇とその時代

江藤淳

日本人にとって、天皇とは、そして昭和とは何であったのか――さまざまな思いをこめて同時代の精神を綴った著者会心の評論集

定価1300円（本体1262円）

ニューハード文明論

石井威望

「平成テクノ維新」が始まった！

情報が極度に高度化されたニューハード時代――西欧型技術文明からの離陸に成功した日本は、今いかなる文明を世界に発信するのか

定価1300円（本体1262円）

ある通商国家の興亡

森本哲郎

カルタゴの遺書

何が経済大国を滅ぼしたのか？　古代、地中海を舞台に繁栄をきわめた小さな国・カルタゴの興亡が、現代日本に語りかけるものとは

定価1300円（本体1262円）

定価は将来、改定される事があります

まえかき

筆者は、こう書名をつけたかった。

「二十一世紀文明の方向」――。もっともこのタイトルは、夫をいうと借用したものてある。

その原名は、A・ノーグフリート著『現代――二十世紀文明の方向――』てある。

フランスの文明評論家てある、A・ノーグフリート氏か、　九五四（昭和二十九）年に講演した内容を、一冊の本にまとめたのを、一九五六（昭和三十一）年に仏文学者の杉捷夫・東大教授か訳し、東京の紀伊國屋書店から出版したのか、この書てあった。

この本には深い思い出かある。当時、というのは、昭和三十年代後半たか、前田美波里嬢をモテルに使って、化粧品メーカーの資生堂の大ポスターを撮影、一躍有名になったコマーシャル・カメラマンの横須賀巧光氏に、就職の世話をお願いしたことかあった。

筆者は、東京教育大学文学部て言語学を専攻し、東京大学新聞研究所てジャーナリスム論を学んていた。

横須賀氏は、広告制作会社の日本テサインセンターにいた当時日本一のコピーライターと称された西尾純久氏を紹介して下さり、筆者は同社のテストにパスし、コピーライターになろうと思った。

しかし、新聞社の入社試験にも合格してしまったので、第二次日米安保改定問題の時、世論形成にパワーを発揮した新聞に魅力を感し、新聞記者への道を選んたのてある。

その時、横須賀氏が「先を見る目かないな。世の中は、こんなふうに変わるよ。この本を読んてこらん」と、記念に渡してくれたのか、この本『現代――二十世紀文明の方向――』てあった。

その内容は「第一章、管理の時代」から始まって「第二章、秘書の時代」「第三章、広告の時代」と続き「第六章、速度の時代」「第九章、技術の時代」まて、二十世紀後半はとのような時代になるかを、分析した文明評論の書てあった。

横須賀氏は、これからは「広告の時代になるのに……」という意味を込めて、この本を下さったのたろう。まさにその通りになって、今や電通、博報堂……と広告会社てなけれは夜も明けない世の中となっている。

商品を売るのに広告を出すのはむろんのこと、政治家の選挙キャンペーンまて、広告代理店の知恵を借りるほとてある。

という具合に、この『現代』に書いてある二十世紀の時代分析は、まさにぴったりなのてある。完全に当たっているのてある。

重役のやるへきことか多くなり秘書なしては仕事をこなせなくなるから「秘書の時代」であり、超音速旅客機、コンコルトに代表される「速度の時代」、技術革新により産業構造かカラリと変貌する「技術の時代」……というようにまさにマトを射た本てある。

このA・ノーグフリート氏のあとにも、未来予測の本はいろいろ出版されている。A・トフラー氏の『第三の波』に代表されるような書物は多いか、それらはいすれも技術論を先行させた本てあり、ミクロ的な分析、予測か多すきて、今すくには信し難い占か多い。情報通信機器か発達、普及して、「在宅勤務」となり、会社に出勤しなくなる――というような手の本てある。

ところか、A・ノーグフリート氏の予測は、マクロ的に時代状況の変化を予測したものてあり、その内容は今みても前述の通りほとんとか当たっている。

昭和三十年前後というのは、現代の怪物、コンピュータかやっと計算の道具として使用されたはかりの時。ところかそのコンピュータか、ある程度、人間の頭脳の代用さえしかねないほと発達して、それか中心となって社会構造や産業構造か大きく変化し出してきているのか現代てあり、二十一世紀なのてある。それをひと言て高度情報社会とか、情報化社会というのたか、実際にとういう時代になるかを考えてみようというのか、この書の狙いてある。

そこて題名を借りて「二十一世紀文明の方向」としようとしたのてある。

ます二十一世紀は必す高度情報社会になるのは間違いない。

それては同社会は、とのような社会になるのたろうか。ハイテクか、我々人間をおしつふしてしまう社会になるのたろうか。政治、経済、私たちの暮らしふりは、社会組織は、とう変貌するのたろうか。

その変貌は、現在の延長線の上にあるのか、はたまた逆転して、先祖返りをするような社会になるのたろうか。その社会を生き抜くために、企業は、私たちは、とうしたらよいかを、大胆に予測したのかこの一書てある。

高度情報社会は、必すやってきて、世の中を大きく変化させるたろう。

その変化は突然やってくる訳てはない。徐々に変化していき、気かついた時には大きく変化しているのてある。筆者か新聞社に入社した昭和三十八年には、また原稿を送るのに、電話網か不備てあったので、伝書鳩に背負わせていたのてある。それからまた四分の一世紀余しか経っていないのに、い

つの間にか地球の裏側から通信衛星の回線によりファクシミリで送稿できるのである。

日本列島ならどこへても、ダイヤルを回すたけで電話をかけられるようになったのは昭和五十四年のこと。わずか十年ほと前のことた。それまては山村や離島への電話は、電話局て交換手か手て接続していた。この十年間に、レーサーと光ファイハーケーブルを使うディンタル通信か突如、出現して、「話し」て「聞く」たけたった電話を、スケノチホンやテレビ電話を可能にして「読み」「書き」「見る」電話に変化させたのてある。

このように電気通信の世界ての技術の進歩は速い。したかって、それによって引き起こされる社会の変貌も、また速い。二十一世紀といっても私か伝書鳩を使っていた時代より、身近に迫っているのてある。筆者は、我か国のテレコム行政を担当する郵政省と、それの実施機関てあるＮＴＴとＫＤＤの記者クラフに足かけ九年いて、この電気通信の変貌をウォノチしてきた。その体験をもとに、独断と偏見によって、予測したのか、この一書てある。二十一世紀を考える参考になれは幸いてある。

なおこの書は、毎日新聞社や電気通信普及財団が出しているテレコム社会科学賞を受賞した拙著『情報社会　これからこうなる』（ＰＨＰ研究所）、名古屋市のヘンチャー・ヒンネス「メイテノク」の社内報「ＳＨＯＲＹＵ」なとに発表したものを、集大成した本てある。

一九八九年　八月

前野　和久

大予測・十年後の日本——目次

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

まえがき

第一部　高度情報社会を徹底分析する

1　高度情報社会は「C&D社会」である　17
情報が売り買いされる時代／一次アノプ　による第三次産業の激増／産業は七次まで　高次化　する

2　産業を七次まで細分すると　23
特色に応じた産業分類の時代

3 産業は高次化するほど利益が上がる 27

薄利多売の一次・二次産業／第三次産業の違いは知恵で決まる／付加価値による高次化が高収益を生む

4 高次化産業のもうかるヒミツ 37

付加価値は「知的情報」から「心的情報」へ／高次化産業は「古い皮質」に訴える

5 やってくる女性の時代 41

性差別の原因は産業構造にあり／母系社会がなぜ父系社会に変わったか／高度情報社会が女性の時代を到来させる／女性の感性が高度な付加価値を実現する

6 情報過多は易占の時代を招く 56

統計が証明した「情報過多」／「占い」が決定の手段となる時代

7 高度情報社会は宗教の時代 64
占いはやかて宗教へ／科学か発達するほと人は宇教に走る／有名人と宇教活動

8 街を卑弥呼がかっ歩する 74
易占て女王となった卑弥呼／目立ち始めた 卑弥呼現象 ／ 卑弥呼 時代の長所と危険

第二部 徹底予測!!二十一世紀の日本

9 〈地方・国土開発①〉やってくる地方の時代 85
距離 と 時間 か消えていく／ニューメディアか地方を振興する／地方から都しへ知恵を送る時代

10
〈建設業〉
さよならTOKYOも夢ではない　96
オフィスは地方へと拡散する／インテリジェント化が建設業をテレコム事業にする／電気通信回線が地価を決める

11
〈地方・国土開発②〉
工場より人材誘致で地方開発。頭脳が生産工場　104
工場誘致は完全な時代遅れ　人間こそ　情報生産工場　と考えよ　人口五〇〇万のアイルランドが人材を輩出した理由／人材の集まった街が発展する

12
〈戦争〉
高度情報社会の市民戦争は「総選挙」である　112
かつて戦争は何を目的としたか／激変する戦争目的

13
〈高齢化〉
警察署に「老人課」の誕生する日　119
進む高齢化／多様化する高齢者向けサービス／情報社会に老人は対応できるか？

14

〈行政〉

デグレ化し政治家は時の氏神　133

ネットワーク化が境界線を消滅させる／規制緩和で次々と誕生する新たなモウケ口／情報化がディレギュレーションを必然にする／一層顕著になる　政高官低

15

〈教育〉

夕陽の法学部から日の出の文学部へ　143

法律が現実よりも遅れ始めた／ネットワーク型メディアと法概念の食い違い／この問題を法律で扱う難しさ／先端技術が法律を乗り越える／法律的発想より文学部的発想が求められる

16

〈産業構造〉

異業種参入、翻訳会社がVAN企業に早変わり

警備保障業を兼ねるタクシー会社の登場／小さな会社でもVAN事業が自前でできる

17

〈マスコミ①〉

〝大新聞〟は先祖返りし、DMが注目の的に　165

中央紙と地方紙との争いか激化する／新聞社は「情報のテパート」に変身する／新聞販売店か「ニューメティア」を修理する？／進む広告の多様化・詳細化

18

〈マスコミ②〉

テレビ局が、携帯電話会社になるのも可能　178

木国並み八〇チャンネル時代か到来？／年増殺しの高品位テレビ／国際関係をテレビか変える!?／電波は移動体通信に使え／地方TV局は炭焼小屋か

19

〈生き方・人生①〉

「チリ積」で節約、山を築く時代　190

コンピュータとは一節約の道具／マイコンか「貧」を生む

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com